

伝染性紅斑

①ヒトパルボウイルスB19の感染によって起こる皮膚の発しんを主症状とする急性感染症です。両頬がリンゴのように赤くなることから別称「リンゴ病」とも呼ばれます。

②感染してから4～20日後に、両頬に境界鮮明な紅い発しんが現れます。続いて体や手・足に網目状の発しんが拡がりますが、これらの発しんは、通常1週間程度で消失します。なかには一度消えた発疹が短期間のうちに再び出現することがある。成人では関節痛・頭痛などを訴えることがあるが、自然に回復する。

③多くの場合、頬に発しんが出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあります。

④特効薬はなく、特別な治療方法はありません。また、基本的には軽い症状の病気ですから、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。

⑤感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」や、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」があります。

⑥予防接種はありません。予防には、手洗い、うがい、咳エチケットが有効です。

⑦保育園や学校など周囲で患者発生がみられる場合、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ患者との接触を避けるよう注意が必要です。

⑧目黒区の保育園では診断がついて、体力が回復するまで登園を控えることになっています。